

令和6年度 入学者選抜学力試験 数学（後期／経済・DS）解答例

[1] 0以上の実数 t に対し、関数 $f(x) = -x^2 + 4x - 2t|x| + 2$ の最大値を $M(t)$ とする。このとき、次の問いに答えよ。

(1) $M(1)$ と $M(3)$ の値をそれぞれ求めよ。

(2) 関数 $M(t)$ を求めよ。

(1) $t=1$ のとき、

$$f(x) = \begin{cases} -x^2 + 2x + 2 & (x \geq 0) \\ -x^2 + 6x + 2 & (x < 0) \end{cases}$$

$$= \begin{cases} -(x-1)^2 + 3 & (x \geq 0) \\ -(x-3)^2 + 11 & (x < 0) \end{cases}$$

したがって $x \geq 0$ のとき

$$f(x) \leq f(1) = 3$$

$x < 0$ のとき $f(x)$ は単調増加となるので

$$f(x) < -(0-3)^2 + 11 = 2$$

ゆえに $M(1) = 3$ 。

$t=3$ のとき、

$$f(x) = \begin{cases} -x^2 - 2x + 2 & (x \geq 0) \\ -x^2 + 10x + 2 & (x < 0) \end{cases}$$

$$= \begin{cases} -(x+1)^2 + 3 & (x \geq 0) \\ -(x-5)^2 + 27 & (x < 0) \end{cases}$$

したがって $x \geq 0$ のとき $f(x)$ は単調減少となるので

$$f(x) \leq f(0) = 2$$

$x < 0$ のとき $f(x)$ は単調増加となるので

$$f(x) < -(0-5)^2 + 27 = 2$$

ゆえに $M(3) = 2$ 。

(2) $x \geq 0$ のとき

$$f(x) = -x^2 + (4-2t)x + 2$$

$$= -\{x - (2-t)\}^2 + (2-t)^2 + 2$$

したがって $2-t \geq 0$ 、すなわち $t \leq 2$ のとき $x \geq 0$ の範囲で

$$f(x) \leq (2-t)^2 + 2$$

$$= t^2 - 4t + 6 \quad \dots \textcircled{1}$$

$t > 2$ のとき $f(x)$ は $x \geq 0$ で単調減少となるのでこの範囲で

$$f(x) \leq f(0) = 2 \quad \dots \textcircled{2}$$

$x < 0$ のとき

$$f(x) = -x^2 + (4+2t)x + 2$$

$$= -\{x - (2+t)\}^2 + (2+t)^2 + 2$$

$t \geq 0$ なので $f(x)$ は $x < 0$ で単調増加となる。したがって $x < 0$ の範囲で

$$f(x) < -0^2 + (4+2t) \cdot 0 + 2 = 2 \quad \dots \textcircled{3}$$

①, ②, ③および $t \geq 0$ であることより

$$M(t) = \begin{cases} t^2 - 4t + 6 & (0 \leq t \leq 2) \\ 2 & (t > 2) \end{cases}$$

- [2] $\alpha = \frac{\sqrt{3}-1}{4}$, $\beta = \frac{\sqrt{3}+1}{4}$ として、座標平面上の点 $A_n(x_n, y_n)$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) を次のように定義する。

$$(x_1, y_1) = (1, 0),$$

$$(x_n, y_n) = (\alpha x_{n-1} - \beta y_{n-1}, \beta x_{n-1} + \alpha y_{n-1}) \quad (n = 2, 3, 4, \dots)$$

原点 O を基準とする A_n の位置ベクトルを \vec{a}_n とするとき、次の問いに答えよ。

- (1) \vec{a}_1 と \vec{a}_2 のなす角を θ とする。 $\cos \theta$ と $\sin \theta$ の値をそれぞれ求めよ。
- (2) $|\vec{a}_{n+1}|$ を $|\vec{a}_n|$ を用いて表せ。
- (3) \vec{a}_n と \vec{a}_{n+1} のなす角 θ_n は n によらず一定になることを示せ。
- (4) $\triangle OA_n A_{n+1}$ の面積を n を用いて表せ。

- (1) \vec{a}_2 を成分表示すると、

$$\begin{aligned} \vec{a}_2 &= (x_2, y_2) = (\alpha, \beta) \\ &= \left(\frac{\sqrt{3}-1}{4}, \frac{\sqrt{3}+1}{4} \right) \end{aligned}$$

よって、

$$\begin{aligned} |\vec{a}_2|^2 &= \alpha^2 + \beta^2 \\ &= \frac{4-2\sqrt{3}}{16} + \frac{4+2\sqrt{3}}{16} = \frac{1}{2} \end{aligned}$$

$\vec{a}_1 = (1, 0)$ なので

$$\cos \theta = \frac{\vec{a}_1 \cdot \vec{a}_2}{|\vec{a}_1| \cdot |\vec{a}_2|} = \sqrt{2}\alpha = \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4}$$

A_1 は x 軸上の点、 A_2 は第1象限内の点なので $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ 。したがって

$$\begin{aligned} \sin \theta &= \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = \sqrt{1 - 2\alpha^2} \\ &= \sqrt{1 - \frac{2-\sqrt{3}}{4}} = \sqrt{\frac{2+\sqrt{3}}{4}} \\ &= \sqrt{\frac{(\sqrt{3}+1)^2}{8}} = \frac{\sqrt{3}+1}{2\sqrt{2}} \\ &= \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (2) \quad |\vec{a}_{n+1}| &= \sqrt{x_{n+1}^2 + y_{n+1}^2} \\ &= \sqrt{(\alpha x_n - \beta y_n)^2 + (\beta x_n + \alpha y_n)^2} \\ &= \sqrt{(\alpha^2 + \beta^2)(x_n^2 + y_n^2)} \\ &= \sqrt{\frac{1}{2}} |\vec{a}_n| = \frac{\sqrt{2}}{2} |\vec{a}_n| \end{aligned}$$

- (3) $\cos \theta_n$ が n によらず一定であることを示せばよい。

$$\begin{aligned} \cos \theta_n &= \frac{\vec{a}_n \cdot \vec{a}_{n+1}}{|\vec{a}_n| |\vec{a}_{n+1}|} \\ &= \frac{x_n(\alpha x_n - \beta y_n) + y_n(\beta x_n + \alpha y_n)}{|\vec{a}_n| |\vec{a}_{n+1}|} \\ &= \frac{\alpha(x_n^2 + y_n^2)}{|\vec{a}_n| |\vec{a}_{n+1}|} = \frac{\alpha |\vec{a}_n|^2}{|\vec{a}_n| |\vec{a}_{n+1}|} \\ &= \frac{\alpha |\vec{a}_n|}{|\vec{a}_{n+1}|} = \sqrt{2}\alpha = \frac{\sqrt{6}-\sqrt{2}}{4} \end{aligned}$$

よって θ_n は n によらず一定。

- (4) (3) より $\theta_n = \theta$ 。よって $\triangle OA_n A_{n+1}$ の面積 S は

$$S = \frac{1}{2} |\vec{a}_n| |\vec{a}_{n+1}| \sin \theta$$

(2) より $\{|\vec{a}_n|\}$ は初項 $|\vec{a}_1| = 1$ 、公比 $\frac{\sqrt{2}}{2}$ の等比数列なので、

$$|\vec{a}_n| = \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^{n-1}$$

したがって、

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^{n-1} \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^n \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4} \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^{2n} \left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)^{-1} \frac{\sqrt{6}+\sqrt{2}}{4} \\ &= \frac{\sqrt{3}+1}{2^{n+2}} \end{aligned}$$

令和6年度 入学者選抜学力試験 数学（後期／経済・DS）解答例

〔3〕 赤玉1個と白玉2個が入っている袋がある。この袋から玉を1個取り出して、赤玉であればそのまま袋に戻し、白玉であれば袋に戻さず新たに赤玉を1個袋に入れるという試行を、袋の中が全て赤玉になるまで繰り返す。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 2回目で白玉を取り出し、かつ6回目で繰り返しが終わる確率を求めよ。
- (2) 6回目で繰り返しが終わる確率を求めよ。
- (3) n 回目で繰り返しが終わる確率を n を用いて表せ。

(1) 白玉を○、赤玉を●で表すと、題意の取り出し方は●○○●●○ということになる。1個目の白玉を取り出すまでは袋の中に赤玉1個と白玉2個、1個目の白玉を取り出した以降は袋の中に赤玉2個と白玉1個が入っている。つまり1個目の○の確率は $\frac{2}{3}$ 、2個目の○の確率は $\frac{1}{3}$ 、1個目の○より前の●の確率は $\frac{1}{3}$ 、後の●の確率は $\frac{2}{3}$ である。したがって求める確率は

$$\frac{1}{3} \cdot \frac{2}{3} \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^3 \cdot \frac{1}{3} = \frac{2^4}{3^6} = \frac{16}{729}$$

(2) 6回目で繰り返しが終わるということは、6回目に2個目の白玉を取り出すということ。そのような取り出し方は○○●●●○、●○○●●○、●●○○●○、●●●○○○の5通りである。 k 回目に1個目の白を取り出す確率は(1)と同様に考えて

$$\left(\frac{1}{3}\right)^{k-1} \cdot \frac{2}{3} \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^{5-k} \cdot \frac{1}{3} = \frac{2^{6-k}}{3^6}$$

したがって求める確率は

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^5 \frac{2^{6-k}}{3^6} &= \left(\frac{2}{3}\right)^6 \sum_{k=1}^5 \left(\frac{1}{2}\right)^k \\ &= \left(\frac{2}{3}\right)^6 \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^5}{1 - \frac{1}{2}} \\ &= \left(\frac{2}{3}\right)^6 - \frac{2}{3^6} \\ &= \frac{2^6 - 2}{3^6} = \frac{62}{729} \end{aligned}$$

(3) $1 \leq k < n$ とする。(2)と同様に考えると、求める確率は白玉を k 回目に n 回目に取り出す確率

$$\left(\frac{1}{3}\right)^{k-1} \cdot \frac{2}{3} \cdot \left(\frac{2}{3}\right)^{n-1-k} \cdot \frac{1}{3} = \frac{2^{n-k}}{3^n}$$

を $k=1$ から $n-1$ まで足したものである。

したがって

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} \frac{2^{n-k}}{3^n} &= \left(\frac{2}{3}\right)^n \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{1}{2}\right)^k \\ &= \left(\frac{2}{3}\right)^n \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1 - \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1}}{1 - \frac{1}{2}} \\ &= \left(\frac{2}{3}\right)^n - \frac{2}{3^n} \\ &= \frac{2^n - 2}{3^n} \end{aligned}$$

また1回目で繰り返しが終わることないのでその確率は0であり、上式に $n=1$ を代入したものに等しい。したがってすべての n に対し成り立つ。

〔4〕 3本の当たりくじを含む6本のくじから、はじめにA君がくじを1本引き、残りのくじからB君が2本引く。A君、B君が引いた当たりくじの本数をそれぞれ X, Y とすると、次の問いに答えよ。なお、 $\sqrt{5} = 2.24$ とし、付表の正規分布表を利用してよい。

(1) X と Y のとり値のすべての組 (x, y) と、それぞれの組に対応する確率 $P(X = x, Y = y)$ を求めよ。

(2) X と Y の積の確率変数 $W = XY$ について、期待値 $E(W)$ と分散 $V(W)$ を求めよ。

(3) この試行を170回繰り返す。 k 回目の試行でA君、B君それぞれが引いたあたりくじの本数の積を W_k とする。 W_1, W_2, \dots, W_{170} の標本平均

$$\bar{W} = \frac{1}{170}(W_1 + W_2 + \dots + W_{170})$$

が0.5より大きくなる確率を、正規分布による近似を用いて求めよ。

(1) X のとり値は、0, 1, Y のとり値は0, 1, 2であるから、とり値のすべての (x, y) 組は
(0, 0), (0, 1), (0, 2), (1, 0), (1, 1), (1, 2)

のいずれかで、これら以外の (x, y) では $P(X = x, Y = y) = 0$ となる。ここで、A君が引くとき6本中3本が当たりくじであるから、

$$P(X = 0) = \frac{1}{2}, \quad P(X = 1) = \frac{1}{2}$$

$X = 0$ のとき、 $Y = 0, 1, 2$ となる条件つき確率はそれぞれ、

$$\frac{{}_2C_2}{{}_5C_2} = \frac{1}{10}, \quad \frac{{}_3C_1 \cdot {}_2C_1}{{}_5C_2} = \frac{3}{5}, \quad \frac{{}_3C_2}{{}_5C_2} = \frac{3}{10}$$

したがって乗法定理より

$$P(X = 0, Y = 0) = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{10} = \frac{1}{20}$$

$$P(X = 0, Y = 1) = \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{5} = \frac{3}{10}$$

$$P(X = 0, Y = 2) = \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{10} = \frac{3}{20}$$

$X = 1$ のときも同様に考えると、

$$P(X = 1, Y = 0) = \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{10} = \frac{3}{20}$$

$$P(X = 1, Y = 1) = \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{5} = \frac{3}{10}$$

$$P(X = 1, Y = 2) = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{10} = \frac{1}{20}$$

(2) $W = XY$ のとり値は0, 1, 2で、各値をとる確率は、

$$P(W = 1) = P(X = 1, Y = 1) = \frac{3}{10},$$

$$P(W = 2) = P(X = 1, Y = 2) = \frac{1}{20}$$

また余事象の確率から

$$P(W = 0)$$

$$= 1 - \{P(W = 1) + P(W = 2)\} = \frac{13}{20}$$

よって、 W の期待値と分散は、

$$E(W) = 0 \cdot \frac{13}{20} + 1 \cdot \frac{3}{10} + 2 \cdot \frac{1}{20} = \frac{2}{5}$$

$$E(W^2) = 0 \cdot \frac{13}{20} + 1^2 \cdot \frac{3}{10} + 2^2 \cdot \frac{1}{20} = \frac{1}{2}$$

$$V(W) = E(W^2) - E(W)^2$$

$$= \frac{1}{2} - \left(\frac{2}{5}\right)^2 = \frac{25 - 8}{50} = \frac{17}{50}$$

(3) (2)より、母平均 $\frac{2}{5}$ 、母分散 $\frac{17}{50}$ の母集団からの大きさ170の無作為標本とみなすことができるので、 \bar{W} の分布を正規分布 $N\left(\frac{2}{5}, \frac{17}{50 \cdot 170}\right)$ 、すなわち $N\left(\frac{2}{5}, \frac{1}{500}\right)$ で近似し、

$$P(\bar{W} > 0.5) = P\left(\frac{\bar{W} - \frac{2}{5}}{\sqrt{\frac{1}{500}}} > \frac{0.5 - \frac{2}{5}}{\sqrt{\frac{1}{500}}}\right)$$

$$= P(Z > \sqrt{5})$$

$$= P(Z > 2.24)$$

$$= 0.5 - 0.4875 = 0.0125$$

〔5〕 a, b を正の定数とし、放物線 $C: y = x^2$ と直線 $l: y = ax + b$ の交点を P, Q とする。点 R が C 上を P から Q まで動くとき、次の問いに答えよ。

- (1) 線分 PQ の長さを a, b を用いて表せ。
- (2) C と l で囲まれた図形の面積を a, b を用いて表せ。
- (3) $\triangle PQR$ の面積の最大値とそのときの R の座標を、 a, b を用いて表せ。

(1) P, Q の x 座標をそれぞれ α, β (ただし $\alpha < \beta$) とすると、線分 PQ の長さ d は

$$\begin{aligned} d &= \sqrt{(\beta - \alpha)^2 + (\beta^2 - \alpha^2)^2} \\ &= \sqrt{(\beta - \alpha)^2 \{1 + (\beta + \alpha)^2\}} \end{aligned}$$

α, β は二次方程式 $x^2 - ax - b = 0$ の解であるから、

$$\begin{aligned} \beta - \alpha &= \frac{a + \sqrt{a^2 + 4b}}{2} - \frac{a - \sqrt{a^2 + 4b}}{2} \\ &= \sqrt{a^2 + 4b} \end{aligned}$$

$$\beta + \alpha = a$$

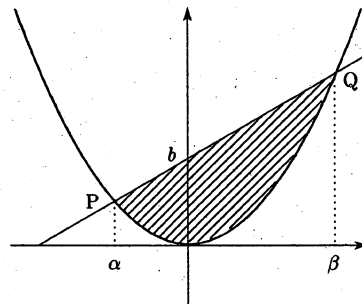
したがって

$$d = \sqrt{(a^2 + 4b)(a^2 + 1)}$$

(2) 求める図形の面積は

$$\begin{aligned} &\int_{\alpha}^{\beta} (ax + b - x^2) dx \\ &= -\int_{\alpha}^{\beta} (x - \alpha)(x - \beta) dx \\ &= \frac{(\beta - \alpha)^3}{6} \\ &= \frac{(a^2 + 4b)^{\frac{3}{2}}}{6} \end{aligned}$$

(3) C と l のグラフは以下のようになっている。



この図より、 R を通る C の接線の傾きが l の傾き a と等しくなると、 $\triangle PQR$ の面積が最大になることがわかる。

$$(x^2)' = 2x = a \iff x = \frac{a}{2}$$

であるから、 R の座標は $(\frac{a}{2}, \frac{a^2}{4})$ 。このとき、 R と l の距離は

$$\frac{\left| \frac{a^2}{2} - \frac{a^2}{4} + b \right|}{\sqrt{a^2 + 1}} = \frac{a^2 + 4b}{4\sqrt{a^2 + 1}}$$

となる。したがって $\triangle PQR$ の面積の最大値は、

$$\begin{aligned} &\frac{1}{2} \cdot \frac{a^2 + 4b}{4\sqrt{a^2 + 1}} \cdot \sqrt{(a^2 + 4b)(a^2 + 1)} \\ &= \frac{(a^2 + 4b)^{\frac{3}{2}}}{8} \end{aligned}$$

〔6〕 次の極限値を求めよ。

$$(1) \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \left\{ 1 - \left(\frac{k}{n} \right)^2 \right\}$$

$$(2) \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \sqrt{1 - \left(\frac{k}{n} \right)^2}$$

(1) $f(x) = (1-x^2)$ とすると、区分解法より

$$\begin{aligned} & \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \left\{ 1 - \left(\frac{k}{n} \right)^2 \right\} \\ &= \int_0^1 f(x) dx = \int_0^1 (1-x^2) dx \\ &= \left[x - \frac{x^3}{3} \right]_0^1 = \frac{2}{3} \end{aligned}$$

別解 Σ の計算公式より、

$$\begin{aligned} \sum_{k=0}^{n-1} \left(\frac{k}{n} \right)^2 &= \frac{1}{n^2} \sum_{k=0}^{n-1} k^2 \\ &= \frac{1}{n^2} \cdot \frac{1}{6} (n-1)n(2n-1) \end{aligned}$$

となるので、

$$\begin{aligned} & \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \left\{ 1 - \left(\frac{k}{n} \right)^2 \right\} \\ &= \frac{1}{n} \left\{ n - \frac{1}{n^2} \cdot \frac{1}{6} (n-1)n(2n-1) \right\} \\ &= 1 - \frac{1}{6n^2} (2n^2 - 3n + 1) \\ &\rightarrow \frac{2}{3} \quad (n \rightarrow \infty) \end{aligned}$$

(2) $f(x) = \sqrt{1-x^2}$ とすると、区分解法より

$$\begin{aligned} & \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=0}^{n-1} \sqrt{1 - \left(\frac{k}{n} \right)^2} \\ &= \int_0^1 f(x) dx = \int_0^1 \sqrt{1-x^2} dx \end{aligned}$$

$x = \sin \theta$ とおくと、

$$\frac{dx}{d\theta} = \cos \theta$$

x と θ の対応は以下のようにとれる。

x	0	\rightarrow	1
θ	0	\rightarrow	$\frac{\pi}{2}$

$0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ のとき、 $\cos \theta \geq 0$ であるから、
被積分関数は

$$\begin{aligned} \sqrt{1-x^2} &= \sqrt{1-\sin^2 \theta} \\ &= \sqrt{\cos^2 \theta} = \cos \theta \end{aligned}$$

と表すことができる。よって、

$$\begin{aligned} \int_0^1 \sqrt{1-x^2} dx &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos \theta \cos \theta d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^2 \theta d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 + \cos 2\theta}{2} d\theta \\ &= \left[\frac{\theta}{2} + \frac{\sin 2\theta}{4} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{\pi}{4} \end{aligned}$$